

【資料名】「書状」（マレー要衝爆撃作戦について報告）

（大内郡与田山村渡瀬家文書 105-1832）

【年代】昭和17年2月27日（受付印）

【作成】浜松市松本旅館丸山義正 ↓ 香川県大川郡福栄村渡瀬貞殿

【解説】

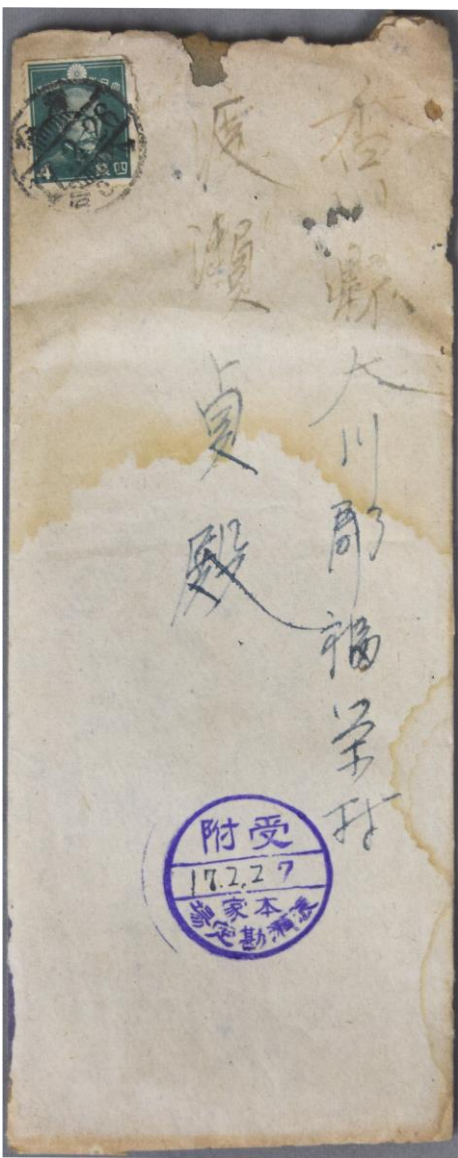
本資料は、南方に派遣された隼部隊丸山義正氏が、故郷の村長渡瀬氏に宛てて書いた私信である。丸山氏が当時派兵されていた場所はマレー半島で、ハワイ海戦と同時進行的に行われたマレー作戦への動員と思われる。

マレー作戦とは、昭和16年（1941年）12月8日、マレー半島に奇襲上陸した日本軍が、英国軍を約70日間で破り、最終目的地シンガポール要塞を攻略（昭和17年2月15日）した進攻作戦である。あらゆる資源が枯渇し困窮していた日本政府にとって、石油やゴムなどの資源が豊富な南方地域は絶対に獲得したい場所だった。この隼部隊の活躍は南下政策に大きく貢献するものとなった。

本資料が実際に書かれた日時については、文中に「最近は敵戦闘機がなくなった」とあることから、在シンガポールイギリス空軍が壊滅した昭和17年1月26日から2月4日の間に書かれたと推察される。

内容については、その他の軍事郵便には見られないほどの肉薄した描写が随所にあり、現場の壮絶さを伝える史料となっている。特に、彼らを狙い撃つ英国軍の高射砲に関しての記述が多い。ちなみに高射砲は、空中で破片を炸裂させて機体に損害を与える榴弾兵器であり、戦闘機への命中率は、数千発撃ってやっと一機撃墜できる程度とかなり低かった。彼は別の書簡において、「さすがに英国製の高射砲は正確です。既に二十回近い爆撃中僕の飛行機には三回高射砲破片弾を受けました。」などと評価をしている。

その後、昭和17年6月のミッドウェー海戦敗北を境に、太平洋における日本軍の優勢は崩れ始める。白鳥町史によると、昭和19年12月14日に丸山氏は戦死された。場所は激戦地フィリピン島ネグロス島西南方海面、いわゆるレイテ島の戦いの最中であった。



御運系より毎日銃の勢に怯るごとく、北濱を
 降りて少くも極めんえきを連日。この一帯の要衝爆
 薬に多く加へてあり、
 (内地から同期生(陸士)が各地に連続に赤石をこり便りも
 程多し、一飛行機送送も兼ねて来たわけ也)。
 この爆薬は猛烈なる高射砲時薬を愛り、魚牧の方
 射砲弾の爆煙を西云と造る能はず。
 爆薬が八、二、五、七、十、十五、二十、二十五、三十、
 四十、五十、六十、七十、八十、九十、百、百五十、二百、
 二百五十、三百、三百五十、四百、四百五十、五百、
 五百五十、六百、六百五十、七百、七百五十、八百、
 八百五十、九百、九百五十、千、千五百、千二百、
 千三百、千四百、千五百、千六百、千七百、千八百、
 千九百、千九百五十、二千、二千五百、二千二百、
 二千三百、二千四百、二千五百、二千六百、二千七百、
 二千八百、二千九百、二千九百五十、三千、三千五百、
 三千二百、三千三百、三千四百、三千五百、三千六百、
 三千七百、三千八百、三千九百、三千九百五十、四千、
 四千五百、四千二百、四千三百、四千四百、四千五百、
 四千六百、四千七百、四千八百、四千九百、四千九百五十、
 五千、五千五百、五千二百、五千三百、五千四百、五千五
 百、五千六百、五千七百、五千八百、五千九百、五千九百五十、
 六千、六千五百、六千二百、六千三百、六千四百、六千五
 百、六千六百、六千七百、六千八百、六千九百、六千九百五十、
 七千、七千五百、七千二百、七千三百、七千四百、七千五
 百、七千六百、七千七百、七千八百、七千九百、七千九百五十、
 八千、八千五百、八千二百、八千三百、八千四百、八千五
 百、八千六百、八千七百、八千八百、八千九百、八千九百五十、
 九千、九千五百、九千二百、九千三百、九千四百、九千五
 百、九千六百、九千七百、九千八百、九千九百、九千九百五十、
 一万、一万五千、一万二千、一万三百、一万四百、一万五
 百、一万六千、一万七千、一万八千、一万九千、一万九百五十、
 二万、二万五千、二万二千、二万三百、二万四百、二万五
 百、二万六千、二万七千、二万八千、二万九千、二万九百五十、
 三万、三万五千、三万二千、三万三百、三万四百、三万五
 百、三万六千、三万七千、三万八千、三万九千、三万九百五十、
 四万、四万五千、四万二千、四万三百、四万四百、四万五
 百、四万六千、四万七千、四万八千、四万九千、四万九百五十、
 五万、五万五千、五万二千、五万三百、五万四百、五万五
 百、五万六千、五万七千、五万八千、五万九千、五万九百五十、
 六万、六万五千、六万二千、六万三百、六万四百、六万五
 百、六万六千、六万七千、六万八千、六万九千、六万九百五十、
 七万、七万五千、七万二千、七万三百、七万四百、七万五
 百、七万六千、七万七千、七万八千、七万九千、七万九百五十、
 八万、八万五千、八万二千、八万三百、八万四百、八万五
 百、八万六千、八万七千、八万八千、八万九千、八万九百五十、
 九万、九万五千、九万二千、九万三百、九万四百、九万五
 百、九万六千、九万七千、九万八千、九万九千、九万九百五十、
 十万、十万五千、十万二千、十万三百、十万四百、十万五
 百、十万六千、十万七千、十万八千、十万九千、十万九百五十、
 十一万、十一万五千、十一万二千、十一万三百、十一万四
 百、十一万五、十一万六、十一万七、十一万八、十一万九、
 十一万九百、十一万九百五十、十二万、十二万五千、十二
 万二千、十二万三百、十二万四百、十二万五、十二万六、
 十二万七、十二万八、十二万九、十二万九百、十二万九百五十、
 十三万、十三万五千、十三万二千、十三万三百、十三万四
 百、十三万五、十三万六、十三万七、十三万八、十三万九、
 十三万九百、十三万九百五十、十四万、十四万五千、十四
 万二千、十四万三百、十四万四百、十四万五、十四万六、
 十四万七、十四万八、十四万九、十四万九百、十四万九百五十、
 十五万、十五万五千、十五万二千、十五万三百、十五万四
 百、十五万五、十五万六、十五万七、十五万八、十五万九、
 十五万九百、十五万九百五十、十六万、十六万五千、十六
 万二千、十六万三百、十六万四百、十六万五、十六万六、
 十六万七、十六万八、十六万九、十六万九百、十六万九百五十、
 十七万、十七万五千、十七万二千、十七万三百、十七万四
 百、十七万五、十七万六、十七万七、十七万八、十七万九、
 十七万九百、十七万九百五十、十八万、十八万五千、十八
 万二千、十八万三百、十八万四百、十八万五、十八万六、
 十八万七、十八万八、十八万九、十八万九百、十八万九百五十、
 十九万、十九万五千、十九万二千、十九万三百、十九万四
 百、十九万五、十九万六、十九万七、十九万八、十九万九、
 十九万九百、十九万九百五十、二十万、二十万五千、二十
 万二千、二十万三百、二十万四百、二十万五、二十万六、
 二十万七、二十万八、二十万九、二十万九百、二十万九百五十、
 二十一万、二十一万五千、二十一万二千、二十一万三百、二十一
 万四百、二十一万五、二十一万六、二十一万七、二十一万八、
 二十一万九、二十一万九百、二十一万九百五十、二十二万、
 二十二万五千、二十二万二千、二十二万三百、二十二万四
 百、二十二万五、二十二万六、二十二万七、二十二万八、
 二十二万九、二十二万九百、二十二万九百五十、二十三万、
 二十三万五千、二十三万二千、二十三万三百、二十三万四
 百、二十三万五、二十三万六、二十三万七、二十三万八、
 二十三万九、二十三万九百、二十三万九百五十、二十四万、
 二十四万五千、二十四万二千、二十四万三百、二十四万四
 百、二十四万五、二十四万六、二十四万七、二十四万八、
 二十四万九、二十四万九百、二十四万九百五十、二十五万、
 二十五万五千、二十五万二千、二十五万三百、二十五万四
 百、二十五万五、二十五万六、二十五万七、二十五万八、
 二十五万九、二十五万九百、二十五万九百五十、二十六万、
 二十六万五千、二十六万二千、二十六万三百、二十六万四
 百、二十六万五、二十六万六、二十六万七、二十六万八、
 二十六万九、二十六万九百、二十六万九百五十、二十七万、
 二十七万五千、二十七万二千、二十七万三百、二十七万四
 百、二十七万五、二十七万六、二十七万七、二十七万八、
 二十七万九、二十七万九百、二十七万九百五十、二十八万、
 二十八万五千、二十八万二千、二十八万三百、二十八万四
 百、二十八万五、二十八万六、二十八万七、二十八万八、
 二十八万九、二十八万九百、二十八万九百五十、二十九万、
 二十九万五千、二十九万二千、二十九万三百、二十九万四
 百、二十九万五、二十九万六、二十九万七、二十九万八、
 二十九万九、二十九万九百、二十九万九百五十、三十万、
 三十万五千、三十万二千、三十万三百、三十万四百、三十万五
 百、三十万六、三十万七、三十万八、三十万九、三十万九百、
 三十万九百五十、

浪橋市松本蔵館
 九ノ義正

デジタル資料室 戦地からの手紙

【翻刻文】

〈封筒表〉

香川県大川郡福栄村

渡瀬貞殿

(昭和) 17年2月26日(消印)

(昭和) 17年2月27日(本家渡瀬勘定場受付印)

〈封筒裏〉

□月4日

浜松市松本旅館 丸山義正

〈1枚目〉

御健康にて毎日銃後の務に忙しきことゝ推察します。

降って小生も極めて元気で連日〇〇マレー最後の要衝爆撃に参加してゐます。

(内地から同期生(陸士)が戦地に連絡に来たのでこの便りを頼みました。飛行機輸送を兼ねて来たわけです)。

〇〇爆撃は猛烈な高射砲射撃を受けます。無数の高射砲弾の爆煙で雲を造る程です。

爆撃高度八〇〇〇米位ですが多数の高射砲弾のためには部隊の飛行機全部が高射砲弾で包まれます。

随分こんなに沢山の高射砲を集めたものだと感心してゐます。夜間攻撃の時など何百といふ照空灯が〇〇島全部から集中され真昼の如く眼がくらむ程です。

近くで破裂する高射砲は「ブーン」と不気味な音をきゝます。

大東亜戦争開戦以来何十回かの爆撃行の内僕の飛行機

〈2枚目〉

には高射砲破片や敵機の機関銃弾で数回孔をあけられました。

高射砲弾の全弾を受けて幸にも帰ったものもあります。

最近敵戦闘機がなくなったから攻撃も楽になりました。

高射砲弾も飛行機を撃墜するには仲々むつかしいらしいと思はれます。あれだけの高射砲がありながら我が損害は開戦以来何十回かの内で一機だけです。

勿論高度が八〇〇〇米もありますからかも知れません。

〇〇基地今日も快晴。明も快晴らしい空には一点の雲もないカンくと午後の太陽が物凄い熱を発してゐる。

屋外には居たゝまらない位暑い。乾季の熱帯は連日

快晴だ。爆撃後の心地よき休憩。明日の爽快な爆撃を想像しつゝ。

自由主義、個人主義、傍若無人のルート、アングロサクソンに対する神の鉄槌。愉快だ。満足だ。

〈3枚目〉

我慢に我慢を重ねて来た神国日本の猛り。

何時迄も徹底的に攻撃を持續する。

その一員として第一次に活躍を許されてゐる我等は実に実に幸福だ。涙の出る程満足だ。

腹の底から出る血の絶叫だ。

思ふ存分体の続く限り一死以て国に報いん覚悟

は何よりも堅い自分と信じてゐる。

村長さんには益々後継者の養成に御尽力あらんことを願ひます。

丸山義正拝

渡瀬貞殿

戦地での写真送ります。御笑覧下さい。

宛名南方派遣隊第二三七八部隊丸山義正